

やっぱり駄目だ

「自分は今何について書いているのか。弁論となりうるものは、まず何か。れっきとした主題がなければならぬ。そうだ、まず、文全体の構成から考えるべきだ。最初の出だしなんか、後でなんとでもなる。」

そう思い直し、再び、一からやり直そうと考えた。そうこうしているうちに、もう昼の二時を越していた。母が昼めしを取る様に、下から呼ぶ。

食べ終わり、ちょっとゆっくりしていたら、兄貴の家庭教師のアルバイトの対象の生徒が二人来た。

英語、数学、人文地理なんでもござれだが、今日は、英語の様である。

兄貴から要求され、仕方なく、僕は愛用のテープレコーダを僕の部屋から下に持って降りた。

使い終わるのを待って、すぐ、僕は自分の部屋へテープレコーダーを戻した。

実はやりたいことがあったからだ。

六時半までかかって、半分遊び調子で、笛を吹きながら、音階を選び、メロディーを楽譜に書きながら作曲と作詞をした。